

中間評価結果（平成19、20年度採択）

番号	研究課題名	研究代表者	評価
20-3	自転車等の中速グリーンモードに配慮した道路空間構成技術に関する研究	徳島大学大学院 教授 山中 英生	B
<p>&lt; 研究の概要 &gt;</p> <p>都市交通のグリーン化を促進するため、我が国における自転車等の中速型グリーンモードの役割を明確にし、それを支える道路空間システム（空間構成、ルール、情報提供）を構成する技術体系構築のため、共存性・情報伝達性の視点から新しい道路交通政策および道路空間構成のあり方を研究する。</p> <p>&lt; 研究継続の妥当性評価 &gt;</p> <p>研究の進捗状況、見通しとも概ね良好である。地域特性等を反映させ、現場での適用を意識したものとするため、指摘事項に留意しながら、現行のとおり研究を進めることが妥当である。</p> <p>&lt; 特記事項（今後の研究に対する意見・指摘事項等） &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸外国の政策分析において、地域特性・地域独自性について明確にするとともに、その特性及び独自性の要因を分析されたい。また、ヨーロッパなどでは、各都市の独自性、自主性、独創性が都市間の競争を生み、新たな試みと充実をもたらしているという点を研究の中でビルトインしていただきたい。</li> <li>・ 日本の独自性を十分に発揮するような前提で研究を行っていただきたい。</li> <li>・ 海外の事例も含めて自転車政策の評価基準を明確にするとともに、道路空間システムの評価手法に用いる共存性（コンパビリティ）の概念を明瞭化すること。</li> <li>・ 快適走行に伴う自転車交通量の増加に関する問題や、走行に関する研究だけでなく駐輪に関する問題にも配慮していただきたい。</li> <li>・ 新しい移動交通モードが道路に入り込むことで、道路景観の新しい体験が豊かになるようなアイデア（新たな道路景観の見られ方に対応した景観整備ポイント、移動媒体自体のデザイン・マーキングや標識のデザイン）についても期待したい。</li> </ul>			